



夢に向かって

ロマンを追いかけて——

大内 弦人 さん (県北中3年)

第32回

私の将来の夢は、宇宙に関する仕事に就くことです。小学3年生の時に図書館で宇宙の本を読んだことがきっかけで興味を持ちました。宇宙は未解明なことが多く、未知の世界に大きなロマンを感じました。いつか自分も宇宙の研究をして、その謎を解き明かしてみたいです。

今は、その夢を叶えるために受験勉強に励んでいます。特に苦手な英語に力を入れて取り組んでいて、将来的には英語を使ってさまざまな国の人と意見を交わし、宇宙について知識を深めていければと思っています。また、小学校から続けているバレーボールを高校でも続けていきたいと

と思っています。中学3年の時には部長をしていて、行動でチームを引っ張れるよう意識して取り組みましたが、上手いかないことが多く、チームをまとめる難しさを実感しました。その経験を生かして、高校ではチームワークの大切さや仲間と協力する大切さを学びながら成長していきたいです。

私は、一つのことを極めたり、追究することが好きで、興味を持った分野にはとことん取り組む性格です。その一方で、興味が無いことには熱が入らないこともあります。視野を広げるためにも、得意ではない分野やあまり関心がない分野にも目を向けるようにしていきたいです。そして幅広い知識と経験を積んで、いざというときに頼られる大人になっていきたいです。

お疲れ様でした —— 引地真町長、佐藤克成副町長 退任 ——



▲花束を受け取る佐藤副町長

任期満了を迎えた引地真町長、退任する佐藤克成副町長の退任式が11月26日、国見町役場で行われました。

引地町長は退任のあいさつで「国や県、そして近隣市町村や友好関係にある町村の支援をいただきながら、国見町職員の皆と共に、前例にこだわらない視点と思考で、人口減少対策はもとより、子育てや教育環境の拡充、さらには過疎の指定を受けた国見町だからこそ、全ての町民の暮らしの質を向上するための進取果敢な事業を進めることができましたのは、皆さまのご理解とご協力の賜物と真心から感謝します」と述べられました。

職員や支持者らがこれまでの労をねぎらいながら、引地町長、佐藤副町長を見送りました。

引地町長は令和2年11月に就任、佐藤副町長は令和3年4月に就任し、町政を支えてきました。



▲退任のあいさつをする引地町長